

## 目次

まえがき	1
<b>序章 中国の軍事改革研究の背景と問題</b>	<b>15</b>
はじめに	15
① 中国軍事力の特性と今日的な課題	17
(1) 中国軍事力の一般的な特性	17
(2) 軍任務の拡大とその影響	19
(3) 中国の国際協調への試みとなお残る課題	21
(4) 懸念すべき近年の軍事動向	23
② 「三元的国境論」と国防近代化の目標	25
(1) 「三元的国境論」の出現	25
(2) 国防近代化の目標と道筋	25
③ 解放軍の現況とその評価	29
(1) 核戦力の現況	29
(2) 通常戦力の現況	32
④ 中国の軍事改革研究の狙いと仮説	36
(1) 本研究の狙いと特性	36
(2) 中国軍事にかかわる問題意識と検討する仮説	37
⑤ 本テーマにかかわる先行研究と関連する研究成果	39
(1) 先行研究の紹介と謝辞	39
(2) 筆者のこれまでの関連研究	41
⑥ 本書の構成	44

# 第1部 革命軍から国防軍への脱皮

## ——毛沢東の軍隊からの決別——

<b>第1章 解放軍の建軍の経緯と毛沢東の軍隊</b> .....	51
はじめに .....	52
① 革命軍の生い立ちと革命戦争の遂行 .....	53
(1) 革命軍の生い立ち .....	53
(2) 革命戦争の経緯 .....	56
② 建国後の軍隊建設——国防軍か、党軍かの曲折 .....	59
③ 毛沢東の軍隊化とその建軍思想——1980年の鄧小平の軍事改革の背景 .....	63
④ 毛沢東の軍隊の特性 .....	66
(1) 軍が武装集団として重要な位置づけに置かれる .....	66
(2) 党軍として党の指揮に従う軍 .....	66
(3) 統帥権の独立 .....	67
(4) 政治性の強い軍 .....	68
(5) 生産任務を担う軍隊 .....	68
(6) 国内治安維持機能の強化 .....	69
おわりに .....	70
<b>第2章 人民戦争戦略の実態と「毛沢東の軍隊」の課題</b> .....	75
はじめに .....	76
① 人民戦争戦略の呪縛 .....	78
(1) 背景としての毛沢東の戦略思想 .....	78
(2) 人民戦争戦略の誕生とその基本 .....	79
(3) 「人民戦争戦略」の実際的な運用 .....	82
(4) 人民戦争戦略の特色と問題点 .....	83
② 建国後の軍事戦略の変遷 .....	87
(1) 建国後の軍事戦略の概括——人民戦争戦略はどのように使われたか .....	87
(2) 建国初期の軍事戦略 .....	89

(3) 社会主義建設期の軍事戦略——「紅の路線」	90
(4) 経済建設期の軍事戦略——「専の路線」	91
③ 「毛沢東の軍隊」の功罪	93
(1) 毛沢東主導の軍隊建設の肯定的な意義	93
(2) 「毛沢東の軍隊」の問題点	94
④ 中国における軍事戦略概念の整理——戦略の体系化と国益の加味	96
(1) 軍事戦略の概念——情勢（認識）の変化に応じ修正されている	96
(2) 戦略概念の区分	97
(3) 軍事戦略のなかの国益	98
おわりに	100
<b>第3章 建国後の対外戦略の展開と中越戦争の教訓</b>	<b>103</b>
はじめに	104
① 革命路線に沿って展開された中国の対外戦略	106
② 建国後に中国がかかわった戦争——軍事戦略の実証	112
(1) 朝鮮戦争	114
(2) 中印戦争	117
(3) 珍宝島事件	118
(4) 中越戦争	118
③ 1979年時点の中国軍事力の実態	120
(1) 核兵器	120
(2) 通常戦力	121
(3) 当時の軍事力の評価	124
④ 中越戦争の実態と教訓	126
(1) 中越戦争の原因と関係要因	126
(2) 中越戦争の特性と狙い	127
(3) 中越戦争の戦闘経過	128
(4) 中越戦争から得られた教訓——露呈した軍事的な問題点	131
おわりに	132

第4章 鄧小平復権と総合的な軍事改革の推進	135
はじめに	136
① 鄧小平の人物像と軍権掌握への道程	138
(1) 鄧小平の生い立ちと特性	138
(2) 鄧小平の戦歴と軍権掌握の過程	140
② 鄧小平の国家戦略と国益概念の導入	143
③ 鄧小平のバランスのとれた総合的な軍事改革	146
(1) 鄧小平の軍事改革の基本方針	146
(2) 総合的でバランスの良い政策レベルの軍事改革	147
④ 鄧小平の挑戦——国家の軍隊化への試みと次世代への統帥権移譲の 布石	152
おわりに	155

## 第2部 国防戦略の確立と近代化に応じた軍種戦略 ——1980年代を中心に——

第5章 戦争観の転換と「現代条件下の積極防御戦略」の確立	161
はじめに	162
① 「誘敵深入」から国境線阻止戦略へ	164
(1) 敵を国境線で阻止する必要性	164
(2) 用心深い「誘敵深入」の否定の手順	165
(3) 国境付近での侵攻阻止戦略の公式化	167
② 「世界大戦は回避できる」への戦争観の転換	171
(1) 「世界大戦不可避」の否定をめぐる論議	171
(2) 戦争観転換の説得と決定	172
(3) 戦争観転換の影響	174
③ 「現代条件下の積極防御戦略」の国防戦略化	177
(1) 国防戦略の公式化	177

(2)「現代条件下の積極防衛戦略」とは	178
おわりに	183
<b>第6章 核戦力の開発と「最小限核抑止戦略」</b>	<b>189</b>
はじめに	190
① 中国の核ミサイル戦力開発の狙いとその背景	191
(1) 核戦力開発の動機と狙い	191
(2) 核開発の基盤整備とその背景	193
② 中国の核開発の経緯	196
③ 1980年代における核戦力の実戦化	200
④ 1980年代末の中国の核戦力の実態	204
(1) 核ミサイル戦力	204
(2) その他の運搬手段の核戦力と弾頭数	206
(3) 核戦力の抑止力の評価	208
⑤ 中国の核戦略——「最小限核抑止戦略」の実態	210
(1) 「最小限核抑止戦略」の狙い	210
(2) 中国核戦略の抑止効果の検討	212
⑥ 中国の核軍縮・管理への対応	214
⑦ 核戦力近代化の位置づけの変化と問題点	218
おわりに	221
<b>第7章 100万人兵力削減と「戦区戦略の模索」</b>	<b>225</b>
はじめに	226
① 中国における解放軍の意義と近代化の経緯	228
② 解放軍の編制と軍区制度	232
③ 1980年代の2段階にわたる軍縮	238
(1) 肥大化した軍隊のスリム化と民活部門の分離 ——1980年代前半の軍縮	238

(2) 政策的な 100 万人兵力削減	241
(3) 軍編成・組織の簡整化	249
(4) 大規模軍縮の問題点	250
④ 「戦区戦略」の誕生とその特性	252
(1) 中国の国境防衛思想の変遷	252
(2) 「戦区戦略」の誕生とその実態	254
⑤ 野戦軍の改編——「戦区戦略」を可能ならしめるための戦力改編	256
(1) 軍区の独立性の強化と統合軍化	256
(2) 合成集団軍への改編	257
(3) パワープロジェクション(投射能力)能力の向上と 即応態勢の強化	258
(4) 兵器など質的な戦力の近代化	259
⑥ 有事に備えた後備戦力の充実と強化——警察部隊・予備役兵・民兵	260
(1) 武装警察部隊の誕生と辺防部隊の変身	261
(2) 予備役制度による軍縮兵の吸収と有事のエキスパンド	263
(3) 民兵制度の充実・強化	264
おわりに	266
<b>第 8 章 近代海軍の建設と「近海防御戦略」の誕生</b>	<b>273</b>
はじめに	274
① 海軍の創設と近代化の経緯	277
② 毛沢東の海軍から近代的な海軍へ	280
③ 劉華清の海軍近代化と沿海海軍からの脱皮	282
④ 中国の海軍力と 1980 年代の増強	286
(1) 1980 年の中国海軍力とその特性	286
(2) 1990 年の中国海軍力——10 年間の成果	288
⑤ 誕生した「近海防御戦略」	292
(1) 海軍戦略の背景	292
(2) 「近海防御戦略」の概念	293

(3) 「近海防衛戦略」をめぐる関連論議と措置	295
⑥ 「三元的戦略的国境論」の出現と中国海軍の海洋進出	298
(1) 海軍強化に伴う海洋進出とその背景	298
(2) 海洋進出の裏づけ：戦略的国境論	300
(3) 中国の海軍力の強化に伴う近年の海洋進出	302
おわりに	305
<b>第9章 空軍の戦略軍化と「攻防兼備防空戦略」の萌芽</b>	<b>311</b>
はじめに	312
① 空軍の創設と朝鮮戦争	314
(1) 空軍の創設とその背景	314
(2) 朝鮮戦争に参戦した中国空軍	315
② 空軍発展の経緯——各兵種ごとの近代化の状況	317
(1) 空軍航空部隊の発展	317
(2) 対空戦闘部隊の発展	321
(3) 空軍レーダー部隊およびその他の部隊	322
(4) 空軍空挺部隊の発展	324
③ 1980年代における空軍近代化の進展	326
(1) 1980年代を迎えるまでの空軍の態勢	326
(2) 1980年頃の中国空軍	328
(3) 1989年頃の中国空軍力——10年間の成果	331
④ 要域防空の必要性和課題	336
(1) 要域防空の必要性の高まり	336
(2) 要域防空追求上の課題	337
⑤ 「積極防空戦略」の誕生と進展——「攻防兼備防空戦略」の萌芽	341
(1) 空軍戦略の積極化	341
(2) 攻防兼備の積極敵防空戦略の萌芽	344
⑥ 1990年代以降の空軍発展への影響	347
おわりに	350

## 第3部 鄧小平主導の国防近代化政策と残された課題

第10章 軍の編成・制度の改革と国防軍化の課題	357
はじめに	358
① 国家の統帥権の制定——国家の軍隊化	359
(1) 国家中央軍事委員会（国家中央軍委）の設置	359
(2) 軍令と軍政分離の試み——国防部の機能強化と総部との関係	362
② 武装力の規定と強権力の任務分担	363
③ 階級制度の復活など軍事制度の整備	365
④ 軍内規律の制定と軍内司法制度の整備	368
(1) 軍内規律の維持	368
(2) 国防関連法規の制定	369
(3) 軍内法治の執行制度	371
⑤ 兵役法による徴兵の合理化	373
(1) 兵役法定定の経緯と意義	373
(2) 国民皆兵における徴兵業務	373
⑥ 志願兵（下士官）制度の創設と発展	376
(1) 士官制度の新設	376
(2) 志願兵（士官）制度の創設	376
⑦ 軍人の世代交代化と優遇措置	378
(1) 定年制の確行による世代交代	378
(2) 軍人の優待および退役軍人などの処遇	379
(3) 勲章制度	379
⑧ 軍事制度改革の成果と残された課題	381
(1) 1980年代の軍事制度改革の成果	381
(2) 残された課題1——軍統帥機構に関わる問題	382
(3) 残された課題2——国防軍化の不徹底と人治の壁	383
おわりに	385



第 11 章 国防大学の創設など軍人の教育訓練の近代化と 人的戦力の課題 .....	389
はじめに .....	390
① 中国における人的戦力の特性 .....	392
(1) 人民を基盤とする大量動員と派閥性 .....	392
(2) 党・軍一体の革命軍と政治思想の重視 .....	392
(3) 政治に強い影響力を持つ軍 .....	393
(4) 企業経営活動で金を稼ぐ軍隊 .....	393
(5) 軍縮に伴う巨大な後備戦力 .....	394
② 鄧小平が進めた人的戦力改革の背景とその狙い .....	395
(1) 人的戦力面での積年の弊害——軍事改革の必要性の背景 .....	395
(2) 人的戦力の近代化の狙い .....	397
③ 人的戦力の構成と管理システム .....	400
(1) 兵役法の制定に伴う軍人の 3 階層化 .....	400
(2) 現役軍人の補充制度 .....	402
(3) 現役兵の管理 .....	405
(4) 後備戦力の管理 .....	406
④ 軍人教育・錬成制度と軍学校の体系化 .....	409
(1) 国防大学の創設と教育体系 .....	409
(2) 後備戦力や国民の軍事訓練 .....	412
⑤ 形而上戦力の実態 .....	414
(1) 軍人の形而上戦力の現状 .....	414
(2) 形而上戦力への悪影響 .....	415
⑥ 人的戦力が抱える課題——人事改革面での課題と注目点 .....	417
おわりに .....	420
第 12 章 兵器・装備の近代化と残された課題 ——新兵器開発・製造の基盤と兵器の輸出入 .....	425
はじめに .....	426

① 兵器・装備の近代化の経緯	428
② 兵器近代化の必要性と目標	430
(1) 1980年代の中国兵器の状況	430
(2) 兵器近代化の方向と課題	431
③ 1980年代の兵器の開発・製造基盤	433
(1) 兵器などの研究・開発の状況	433
(2) 兵器製造機関の担当と活動手順	434
④ 西側からの軍事技術・兵器の導入	436
(1) 通常兵器の導入	436
(2) 核戦力の輸出入と共同開発	437
⑤ 外貨獲得のための兵器輸出	441
(1) 兵器などの輸出の経緯とその基本姿勢	441
(2) 兵器などの輸出および兵器展開催などの状況	442
⑥ 兵器近代化の成果と課題	446
(1) 1980年代にみられた新兵器開発の成果	446
(2) 残された課題	448
おわりに	450

## 第13章 中国の国防費の抑制と生産活動に関わるジレンマ … 455

はじめに	456
① 中国国防費への懸念と特性	458
(1) 「大幅増を続ける中国」国防費への懸念	458
(2) 中国の国防支出の位置づけと特性	460
② 中国の国防支出の構成要因——全体像と体系	464
(1) 「軍隊予算内経費」の構成と概要	464
(2) 「軍隊予算外経費」の概要	469
(3) 戦争経費について	470
③ 1980年代の鄧小平による国防費の抑制	473
(1) 中国建国以降の国防費の推移	473
(2) 鄧小平による国防費の抑制とジレンマ	475

④ 中国における軍の生産活動——国防費の補填と軍による生産活動の課題	478
(1) 解放軍の生産経営活動の背景と概要	478
(2) 軍の農副業生産	479
(3) 軍の企業活動	480
(4) 兵器輸出等による外貨獲得	481
(5) その他特殊なケース	482
おわりに	484
<b>第14章 中国における党軍関係の改革と残された課題</b>	<b>489</b>
はじめに	490
① 中国における党軍関係の歴史——党軍間の確執	492
② 1980年代を迎えた党軍関係の背景	494
(1) 党（政）軍関係の先行研究と考え方	494
(2) 党軍関係に影響する1980年代の中国内外の環境変化	495
③ 党軍関係の特色と鄧小平が狙った改革	497
(1) 中国における党軍関係の特色	497
(2) 党軍関係の改革にかけた鄧小平の狙い	497
④ 中国における軍統帥システム	500
(1) 党の軍に対する「絶対指導の原則」	500
(2) 中央軍委による統帥と国家中央軍事委員会の誕生	501
(3) 共産党中央軍事委員会と国家中央軍事委員会の関係	502
(4) 地方軍隊の党委員会制度と各級部隊の二元指揮システム	503
⑤ 「党が軍を指揮するシステム」の実態	505
(1) 中央軍委の軍統帥の実態	505
(2) 各級軍事組織での党委員会と二元指揮の実態	506
⑥ 中国の党軍関係が抱える今日的な問題	507
(1) 統帥権独立のシステム上の問題	507
(2) 二つの最高統帥機構制に内在するシステム上の問題	507
(3) 軍内二元指揮の問題	508
(4) 軍人の官僚化に伴う中央軍事委員会構成の問題	509
(5) 軍歴と個人的権威の問題	509

(6) 党内序列混乱の問題	510
おわりに	511
<b>終章 1980年代の軍事改革の今日的な意義と残された課題</b>	<b>515</b>
はじめに	515
① 鄧小平主導の軍事改革の今日的な意義	517
(1) 新時代の軍事戦略への転換と体系化	517
(2) 時代に適合した軍隊への再編——兵力削減と軍内制度化・ 法治化の進展	522
(3) 国防関連支出の抑制	524
(4) 軍人のプロフェッショナル化と軍学校制度の体系化	525
(5) 兵器の近代化と国防工業の再編	526
② 鄧小平の軍事改革で残された課題	530
(1) 「党が鉄砲を指揮する原則」の揺らぎ	530
(2) 軍の統帥権の二頭化の問題と二元指揮制度の残存	532
(3) 国防費のリバウンド現象	534
(4) 生産活動にかかわる軍人の腐敗問題	535
③ 研究成果の概要と問題意識への回答	537
(1) 本研究の狙いと特性	537
(2) 問題意識は満たされたか	538
(3) 軍事改革の成果は何であったのか	539
④ 本研究をとじるにあたっての所懐（まとめとして）	541
(1) 鄧小平軍事改革の今日的な総括と党軍関係	541
(2) 今後の中国軍事力の注目点	543
あとがき	549
① 本書のテーマと位置づけ	549
② 私の中国研究の遍歴——本書にたどり着くまで	551
③ これまでの研究成果とお礼	554
④ 日常の中国問題への研鑽とお礼	557
参考文献一覧	560